

留学報告書

東京大学大学院工学系研究科システム創成学専攻
村山研究室 修士2年 富岡知子

派遣先の大学名：Imperial College London

国・地域名：ロンドン，イギリス

留学期間：2013年09月から2013年12月（3カ月半程）

1. 留学準備期

東大での研究生生活と異なる環境に身を置くことで、普段とは違った視点を持ち、自身の成長につなげたいという思いがあり、交換留学制度を活用させて頂こうと思いました。数多くある提携先から、①ちょうど私の研究テーマに近い研究を行っている先生がいらっしゃる、②英語を母国語とする国に行きたかったこと、③世界でも屈指の権威ある大学であることから、Imperial College Londonへ応募するに至りました。

留学準備期で困ったことは、留学生としての受け入れ可否の連絡（メール）をした先生から長い間反応がなく応募締切間近となり焦った点です。最終的には電話を掛けて直接お話することで、快諾して頂きました。毎日大量のメールが届く先生に、メールにきちんと目を通して頂くのは至難の業だと思うので、早めにコンタクトを取ることをお勧めします。

2. 留学期間中

Imperial College Londonへ行かれる方は、入寮できないため（寮は基本的に1年単位で大学に所属する者が対象となります。）住居確保が第一の優先事項です。まずロンドン到着後は、1週間かけて物件を見てまわり、大学からの距離・エリアの治安・家賃・フラットメートの人柄等の観点から住居を決めました。9月は多くの新入生が来る時期で、また半年未満の短期で貸し出してくれる物件は限られています。いいなと思った物件もすぐ他の人に取られてしまうので時間との勝負です。ネットを駆使し、電話を掛けまくり、常識を持って行動する（怪しい広告主もたくさんいます）ことをアドバイスします。

大学では指導教員に非常に丁寧に指導して頂き、大変お世話になりました。研究室にデスクとコンピュータ、実験用の白衣等すべて必要なものを揃えて頂き、また最初の週のうちに技術師や学生の方々を紹介して頂いたため、すんなりと溶け込むことができました。但し、実際に実験を開始するまでは、使用する実

験室毎に安全指導を行う必要があったり、他にも諸々の事務手続きが必要であったり、準備に思いの外時間がかかってしまいました。振り返ってみると、初めの1カ月は準備と生活に慣れることであつたという間に過ぎてしまった印象です。場所は変わっても、普段同様、研究目標を明確に持ち、やるべきことに期限を設け、研究をこつこつと進めることが大事だと思います。私は複合材料の接着技術に関する研究を行ったのですが、研究方針や成果について指導教官とこまめにディスカッションできたのは大変ためになりました。

尚、研究自体においては、原則指導教官と技官の方くらいとしか会話をすることがありません。他の学生と毎回同じ授業を受講する、といった状況ではないので、チャンスがある時に自分から積極的に話しかけに行かないと友達は出来にくい環境かと思います。私の場合は国際学会で仲良くなった人と再会できたり、サークルに入って共通の趣味を持つ人と出会えたりすることで、友達の輪が広がったように思います。Imperial College Londonは留学生が非常に多い大学で、様々な国籍の友達ができただけでとても面白かったです。

ロンドンでの生活については、とにかく物価が高いと感じました。(尚、私が行っていた頃は $\text{£}1 = 160$ 円前後だったかと思います。)節約のため食事はほとんど自炊でしたが、イギリスは食事が美味しくないのでちょうど良かったかな、と思います。また交通費が非常に高いです。学生は、student oyster cardを申請しmonthly travel cardを購入することをお勧めします。基本的には平日軽く飲みに行ったり、週末市内を散策したりすることにお金を使っていました。またせっかくの機会なので、鉄道やLCCを利用して近隣のベルギーやスペインへ週末旅行に行けたのが楽しい思い出です。治安については、夜中もバスが通っており、幸い私自身が危険を感じるようなことはありませんでした。しかし身近な人が強盗に遭うこともあり、常に気を引き締めて行動する必要があると感じました。

3. 最後に

修士2年生の後半期という研究追い込みの時期で何かと大変でしたが、今回の留学を経験できたことをとても幸せに思います。留学を後押しして下さった村山先生、鶴澤先生、留学中サポートしてくれた家族・友人に大変感謝しております。